

「信仰の道」

(昭和四十年 七月發行)

人の本分は信仰の道を進んで精神を清らかにするにある。信仰は人の生命の生活を守り、物事に情意を汲んで互いに睦まじく生活することである。神の御意思を守る人は心豊かになり、精神的には平和な世界を作り、栄えの道を進み行くのである。宇宙の神はこの人類の歡喜の生活を望まれ、日々進展生活の歡喜は神人合一の結びである。宗教はこの神と人との一体化を教へ導き、実現するものでなければならぬ。あらゆる宇宙の御意思を人間界に示すことを神秘という。神秘があつて、宇宙の法則を正しく守る道が明らかとなるのである。

神は萬有の生活を神示によつて導き給う。神は廣大無辺であり、最大權威である。その境地を明瞭にして、嚴格に大愛を以て温かく、人類の道を進まれているのである。この天命を人に移して、その使命を果すのが人の本分である。従つて信仰は人の本性である靈魂たましいを外面的にも内面的にも自然の神の御力によりて磨きあげ、人間同士は睦まじく生活し、大生命の教を理解し、生命を長寿に導く眞法であり、人の道であることを心得られたい。